

# 第2回防災教育推進委員会

日 時：平成20年11月7日（金）

10:00～11:30

場 所：県民会館 1001号室

## 【次 第】

1. 事務局説明 : 中間報告会の結果、地域報告会の素案
2. 各機関からの説明：取組状況、今後の予定、他機関への依頼事項
3. 意見交換

## 【出席予定者】（敬称略、○：防災教育推進委員会委員（代理））

- |                           |         |        |
|---------------------------|---------|--------|
| ○ 気象庁神戸海洋気象台業務課           | 課長      | 根本 和宏  |
| ○ 兵庫県教育委員会事務局教育企画課        | 課長      | 三木 忠一  |
| 兵庫県教育委員会事務局教育企画課          | 指導主事    | 三浦 巡   |
| ○ 兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課      | 課長      | 上り口 豊  |
| 兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課        | 課長補佐    | 平澤 雄一郎 |
| ○ 神戸市教育委員会事務局指導部指導課       | 指導主事    | 宮本 晃郎  |
| ○ 神戸市危機管理室                | 主幹      | 小久保 康晴 |
| ○ 神戸市消防局予防部予防課            | 課長      | 濱田 諭   |
| 神戸市消防局予防部予防課              | 係長      | 定岡 由典  |
| 神戸市消防局予防部予防課              | 係員      | 竹中 邦明  |
| 神戸学院大学学際教育機構防災・社会貢献ユニット   | ユニット長   | 前林 清和  |
| ○ 神戸学院大学学際教育機構防災・社会貢献ユニット | 専任講師    | 船木 伸江  |
| ○ 兵庫県立舞子高等学校環境防災科         | 科長・教諭   | 諏訪 清二  |
| ○ 人と防災未来センター              | 副センター長  | 山本 健一  |
| 人と防災未来センター事業部             | 部長      | 田村 賢一  |
| 人と防災未来センター事業部             | 主幹兼事業課長 | 村田 昌彦  |
| 人と防災未来センター事業部             | 事業課課長補佐 | 野竿 拓哉  |
| 人と防災未来センター研究部             | 研究員     | 奥村 与志弘 |

※事務局：人と防災未来センター

# 中間報告会資料(20.10.27)

## I 進捗状況報告

### 1. 防災科学技術教育関連教材等の作成

#### (1) 防災教育の全国の事例の整理・分類

- ・ 「ぼうさい甲子園」「防災教育チャレンジプラン」や兵庫県内、神戸市内の防災教育などの情報収集がほぼ終了。現在は取組を分類中。

#### (2) 最先端防災科学技術の知見を組み込んだ教材等の試行的開発

- ・ 災害を起こす自然現象を正しく、かつ、わかりやすく理解してもらえよう、イラスト入りのカードなどとワークシートを利用して、現在、神戸学院大学を中心に教材を作成中。現在はまだアイデアを固める段階であるが、試作教材が出来次第、小学校等での試行を行い、神戸海洋気象台、神戸市消防局の監修後、最終形として提案予定。
- ・ GISソフトを活用した、高校生によるハザードマップの作成を試行中。まち歩きによる観察成果とともに、内閣府と神戸市が共同整備した高空間分解能の地震リスクマップや、兵庫県の整備した最新の想定津波氾濫区域図等を3次元GISに展開する予定。現在、舞子高等学校で授業実施中(2学期)。試行結果にもとづき、カリキュラム案をとりまとめ予定。

### 2. 学校の教職員等を対象とした研修プログラムの開発・実施

#### (1) 防災教育推進指導員養成講座等のプログラム化に向けた検討・評価

- ・ 防災教育推進指導員養成講座、震災・学校支援チーム(EARTH)訓練・研修会の評価・検証を行い、研修プログラムを作成するため、有識者、震災・学校支援チーム(EARTH)員(研究・企画班)、県教育委員会事務局の指導主事等の委員をもって構成する「防災教育研修プログラム検討委員会」を設置。検討委員会の開催は、10月、12月、1月の予定。

#### (2) 神戸市内でのモデル的实践

- ・ 防災教育副読本とビジュアル版DVD「しあわせはこぼう(幸せ運ぼう)」の効果的な活用を目指した授業開発(各教科等との関連を含む)。
- ・ 災害別と時間帯別の避難訓練のあり方についての研究と情報交換。
- ・ 保護者や防災福祉コミュニティとの連携による防災訓練及び防災研修。
- ・ 優れた防災体制や防災訓練等を実施している公共施設や民間企業等からの学校現場で

も生かせる情報の収集。

- ・ 神戸市危機管理室や消防局予防課と連携しての全市小・中学校、高等学校、特別支援学校の防災教育担当者研修会の実施。

### **3. 実践的な防災教育プログラム等の開発・実施**

#### **(1) 防災教育推進指導員養成講座等のプログラム化に向けた検討・評価**

- ・ 今年度の講座はすでに昨年段階から内容が決まっており、実施中。過去の内容を精査し、参加者の意見を聞きながら、同時に震災・学校支援チーム（EARTH）の要請も加味して、新たな枠組み、内容を作成予定。出来上がったものについては他府県へ公表の予定。

#### **(2) 神戸市内でのモデル的实践**

- ・ 神戸市消防局や各区消防署等と連携しての防災学習や防災訓練。  
(神戸市防災教育支援プロジェクト：12 小学校がモデル校となる。)
- ・ 防災教育副読本とビジュアル版 DVD「しあわせはこぼろ（幸せ運ぼう）」の年間学習指導計画と重点教材設定による防災学習の实践(神戸市の全小学校(169)・中学校(83))。
- ・ 増水事故の教訓を生かした教材開発(小学校低・中・高学年版と中学校版)と小中学校における实践と評価・改善に向けた取組。
- ・ 工夫された防災訓練や 1.17 集会、防災週間の設定などを各学校の特色ある教育活動の家庭・地域との連携強化。

#### **(3) はばタン防災教育の実施**

- ・ 科学的な根拠を持ちながら、子供が関心を持てる教育プログラム実践の实验を実施。人と防災未来センター研究員が舞子高校生に講義を实施し、同講義内容を参考に、舞子高校生が小学生に対し、兵庫県防災マスコット(はばタン)も活用して「地震」、「火山」等の授業(7~9月に3回)。

### **4. 地域の実情に応じた先進的な取組の实施**

#### **(1) 防災教育の兵庫の事例の整理・分類**

※ 上記「1 (1) 防災教育の全国の実例の整理・分類」参照。

#### **(2) 若者語り部活動の DVD 教材化**

- ・ 震災当時子供だった 27 人の若者が震災の経験とその後の生き方などを語る、「私の語り」を収録。震災を知らない子供達だけでなく、震災を経験した多くの世代に対し、人と防災未来センター内での上映(9/9~)や DVD 教材(9/16 完成)の配布を通じ、成果普及中。事業全体の展開に合わせ、DVD 教材の全国普及の準備中。

### (3) 地域内人材ネットワークの確立

- ・ 防災教育開発機構ホームページを、人と防災未来センター・ホームページ上に開設(7/16)。
- ・ 記者発表、委員会等の公開開催、成果物の提供など、マスコミとの連携を重視して事業展開。新聞、テレビ等で多数の報道。

## Ⅱ 審査意見への対処方針

**【意見1】** 継続的な活動の基盤となるよう、事業実施の間に防災教育開発機構の体制を整えること。

(対処方針)

事業期間後も防災教育開発機構として活動を継続的に行っていくため、平成20年度は地域内ネットワークの確立、平成21年度は地域外とのネットワークの充実を図る。

**【意見2】** 震災を直接経験していない子供たちにも体験を語り継ぐ方法の確立を図ること。

(対処方針)

震災当時子供だった若者が、震災を経験していない子供に経験を語り継ぎ、その成果をDVD教材化することなどにより、語り継ぎ方法の確立を図る。

**【意見3】** これまでの防災教育の成果を再整理し、現場での活動に使いやすい教材等の開発につなげること。

(対処方針)

防災教育開発機構が中心となって、これまでの防災教育の成果の再整理を行い、新たな教材等を開発する。

**【意見4】** 兵庫県は大震災の経験や教訓等の多くの有形無形の知見や成果等を有することから、それらを防災教育に利用しやすいように体系化を図ること。その際に、科学的知見を活用すること。

(対処方針)

大震災で「命・思いやり・助け合い」という防災教育の原点を体験した当地域では、その教訓等を防災教育に活かすための様々な取組を行ってきた。今回の事業では、他地域にも普及させることを目指して、今までの取組の再整理・体系化を図るので、その意味で、大震災の教訓等の活用のされ方も再整理・体系化が図られることとなる。その際、科学的知見も可能な限り活用する。

# 中間報告会における委員指摘

(荒巻照和委員：横浜市磯子消防署長・消防監)

- ・ GIS ソフト教材は、どのようなハザードマップがベースとなるのか。

(山本)

- ・ 神戸市・内閣府が作成した地震ハザードマップや兵庫県が作成した津波等ハザードマップをベースに危険地図を作成し、その上に高校生がまち歩きをした結果を盛り込む。

(中川和之委員：時事通信社防災リスクマネジメント Web 編集長)

- ・ 事業全体の一体性が感じられない。たとえば、ユース語り部 DVD と神戸市のモデル小学校の取組は、どうリンクするのか。

(山本)

- ・ 当地域では、数年前から複数機関の連携による教材作り等が始まった。今回の事業をきっかけに、当地域の全ての機関の連携を目指す。事業開始から日が浅いので「全ての機関」までは進んでいないが、今までなかった連携も既に取り組まれている。

(中川委員)

- ・ しあわせはこぼろ DVD については、今回初めて「耐震化」、「家具の固定」について盛り込まれた。これらの課題は、ひょうごからは十分に発信されていなかったが、これからは、ひょうごからも発信しようという意思の表れか。

(山本)

- ・ しあわせはこぼろ DVD については、小中学生向けには昨年までに作成した DVD の方が使いやすいという面もある。いずれにせよ、「耐震化」、「家具の固定」は重要課題なので、積極的に発信していきたい。

(中川委員)

- ・ 全国の教材の整理については、新たな担い手育成の観点から、若者・子供から子供に伝えている事例を中心に分析してはどうか。

(山本)

- ・ 貴重なアドバイスとして、担当者にも伝える。

(濱田委員長：早稲田大学教授)

- ・ 事業を進めていて新たに分かったことや課題は何か。

(山本)

- ・ ユース語り部 DVD は、地域外向け、地域にあっては子供向けに作成したが、完成すると、地域の大人たちの語りを誘発する効果などもあるように感じた。他方、この DVD を地域外の震災に関心ない人たちに使ってもらうには、仕掛けが必要にも感じた。

# 地域報告会（素案）

## 1. 前 提

### ■事業公募要領〈抄〉

「開催時期任意：平成20年度地域報告会（各地域において実施）」

「平成21年2月：平成20年度最終報告会（有識者会議による評価）」

### ■企画提案書〈抄〉

「2月 地域報告会

・地域関係者に中間成果を披露し、地域内ネットワークを確立」

「3月 第3回防災教育推進委員会

・平成20年度成果及び平成21年度事業計画について」

### ■業務計画書〈抄〉

「地域報告会の開催や成果報告書の普及等を通じて、防災教育開発機構構成機関を中心に、大震災被災地域内の防災教育関係機関による活動の連携を深め、ネットワークを確立する。」

## 2. 事務局素案

■日 程：平成21年2月中旬～3月中旬の平日 ※課題：最終報告会との日程調整

■場 所：JICA兵庫（HAT神戸） 又は 三宮・元町の会議室

■参加者（80名程度??）

○メイン（ロの字型テーブル）：40～50名

・防災教育支援事業関係9機関の職員

・各取組に関わる者（例：EARTHメンバー、神戸市内の防災担当の先生（P））

※県教育委員会開催の「防災教育研修プログラム検討委員会」（委員：神戸学院大学の2先生、EARTHメンバー8人、県教委事務局）を同日（又は合同）開催。

・事業ネットワークに参加してほしい有識者等

○サブ（メインテーブルの後ろの席）：30～40名

・一般参加者（事前に記者発表）

・マスコミ関係者

■進 行（2時間）

・各取組の進捗状況・中間成果・今後の課題についての説明

・今後の取組の在り方等に関する意見交換

## 神戸市内での小学校モデル実施取り組み状況

## 1 モデル実施の予定（実施済み）

区	小学校名	実施時期（予定）	内容（予定）
東灘	魚崎	1月17日	防災学習・防災訓練・防コミ参加
灘	美野丘	11月13日	防災訓練・地震体験車
中央	中央	10月30日	防災〇×クイズ・バケツリレー
兵庫	会下山	11月～12月	防災学習・防災訓練・避難訓練
北	西山	11月14日	防災すごろく（グラグラタウン）
	有馬	1月16日	防災訓練（煙体験）、非常食試食
	小部東	11月18日	防災倉庫中身クイズ、防災すごろく、救急講習
長田	御蔵	10月15日	防災訓練（搬送訓練、バケツリレー、水消火器）
須磨	東落合	11月27日	煙体験、119通報訓練
垂水	乙木	1月16日	防災人形劇、神戸防災体操
西	木津	10月21日	防災人形劇、DVD鑑賞、防災カードゲーム、バケツリレー等
	竹の台	11月18・25日	（18日）防災紙芝居、防災カルタ、救急講習 （25日）避難訓練、〇×クイズ、バケツリレー、消火訓練、天ぷら火災実験

## 2 実施済みモデル校の内容報告

## (1) 長田区 御蔵小学校

- ・ 避難訓練の後、バケツリレー（4年）、水消火器訓練（3年）、毛布担架搬送訓練（5・6年）実施した。防災福祉コミュニティも参加。
- ・ 事前に消防職員が指導を行い、当日の説明は教員が実施した。
- ・ 最後に、救助隊が校舎屋上から要救助者を救助する活動を披露した。



## (2) 西区 木津小学校

- 人形劇・防災ダック（1・2年生）、防災カードゲーム（4年生）、DVD鑑賞（3・6年生）、バケツリレー・毛布担架搬送（5年生）を実施した。
- NPO 法人プラス・アーツ及び消防職員が事前にリハーサルやレクを実施することにより、それぞれのメニューを教員が実施し、NPO 法人プラス・アーツ、消防職員は補助的に授業に協力した。
- DVD鑑賞は、鑑賞後に、消防職員の震災体験講和も実施した。



## (2) 中央区 中央小学校

- 全校生徒に対して、防災〇×クイズを実施したのち、1年生のみバケツリレーを体験した。
- バケツリレーの水利には、災害時の応急給水用ポンプを利用し、その利用方法などについて、防災福祉コミュニティの方々も指導の補助を行った。

